

○また、単に個人の生活上の問題と捉えるのではなく、広い意味で企業防衛として、福利厚生、業務外における飲酒運転の防止のため、従業員の飲酒運転対策に取組む必要があるのではないか。

○運輸業界において、アルコール・インターロック装置を使用する場合には、会社の車両に対して、遠隔地に運行する場合のみの部分的導入から全車導入という方法まで、従業員のマイカーなども含めた対応としては、従業員への支給といった考え方もある。

○活用場面の区分の考え方として、車両重量、運ぶ物（危険物等）、旅客輸送の多寡などで区分をすることが考えられる。また、取付ける対象の区分の考え方として、車両の所有者毎、運転免許区分、レンタカー、想定される被害人数、危険作業所のオペレーションなどにより、区分することも考えられる。

○アルコール・インターロック装置の一般的な課題として、他人による解除、風船の使用、オーバーライド機能、配線の短絡、装置の改造等による不正を完全に阻止できないことが挙げられる。

○また、現状のアルコール・インターロック装置は、確信犯に対する水際防止機能としては限界があり、例えば、オーバーライド機能の使用管理権限を運転手に任せるか、管理者に任せることも含め、飲酒運転の抑止力を確保するための適切な運用設計が必要である。

(2) 自動車製造事業者（日本自動車工業会）

（車両側からみたアルコール・インターロック装置装着に伴う懸案事項・課題と対応）

車両側からみたアルコール・インターロック装置装着に伴う懸案事項・課題と対応について、自動車製造事業者として、日本自動車工業会ADDWG 湧美文治主査及び池田真副主査から、聴取し、以下の情報と見解を得た。

○まず、検証実験の実施に当たって、アルコール・インターロック装置装着に伴う懸案事項として、装着時の信頼性確保、復元時の信頼性確保、装置不具合時の緊急時の対応、車両に与える影響、プッシュエンジンスタートなど新型式車への装着の5つが挙げられる。

AILS装着に伴う懸案事項・課題と対応

項目	課題	対応
装着時の信頼性確保	・既存のコード切断、半田付けは信頼性が劣る * ppmオーダーの品質確保の視点から	・市販の配線キットを流用（一部改造）し、コネクターでの接続とする
復元時の信頼性確保	・切断されたコードを復元しても、完全に元の信頼性には戻らない	
装置不具合など緊急時の対応	・AILS装置不具合時、エンジン始動不可 (米国違反者向け：故障時は動かない側)	・バイパスSWを設置（乱用防止：蓋、封印シール）
AILSが車両に与える影響	・待機電流によるバッテリー上がり ・AILS装置からの電磁ノイズ発生	・車両の使用頻度が比較的高い被験者に限定 ⇒将来的には省電力設計必要 ・性能基準を満たす装置を使用
プッシュ・エンジン・スタートなど新型式車への装着	・スター・リレー配線がキーの場所に無い ・配線の改造は故障診断モード（ダイアグ）に悪影響	【将来課題】 ・AILS内のリレーを小電流対応タイプに変更 ・ダイアグに影響しない接続箇所を探す/作る

図 4.8 自工会資料（2頁）

○アルコール・インターロック装置の自動車への装着について、既存のコードを切断し、半田